



第 5 回検討委員会 開催

☆平成18年11月7日(火)午後7時から
☆野庭小学校 図書室にて

今回の説明・協議内容等

- 1 統合校の設置場所について
- 2 学校名の選定方法について
- 3 通学区域について



今回は、統合校の設置場所の決定に向けて、前回に引き続き議論した結果、統合校は現在の野庭東小学校を使用することとなりました。
また、学校名の選定方法についてはアンケートを実施し、それを素案として検討することとなりました。

1 統合校の設置場所

前回までの検討委員会における議論を踏まえ、統合校の設置場所決定に当たっての論点を整理し、両校PTA選出委員同士の話し合いの結果や施設状況、両校の安全管理に対する取組・両校長の意見等も参考とし、議論が行われました。

統合校の設置場所決定に当たっての論点

設置場所を野庭小にした場合、あるいは野庭東小にした場合、それぞれ以下の項目において課題、問題点があると考えられるので、どのような解決手段があるのかを検討していく。また、子どもたちにとってどちらの学校を使用した方がよいのかといった点から検討していく。

【1 施設状況】

野庭小の方が校庭が狭く、教室数も少ない。

【2 通学時間・距離】

野庭小を設置場所にすると、どの地点からでも10～15分となるが、野庭東小にすると最長が19分となる。

【3 将来的な適正規模化の維持】

どちらを設置場所にした方が適正規模の維持につながるのか。

【4 統合という環境変化に対する子どもたちの順応】

どちらを設置場所にした方が子どもたちのリスクが少ないか。

《施設状況についての補足》

	野庭小	野庭東小
耐震補強工事	必要(C棟は実施済のため不要)	不要

※前回、施設に関する感想の中で、「野庭小体育館の出入口は1つしかないので不安」との意見を掲載しましたが、避難用出入口・階段があるので、二方向避難は可能です。

《前回要求のあった追加資料について》

(1) 学校の耐震リスト

耐震補強工事が必要な学校は「横浜市公共建築物耐震対策事業計画(公表済み)」の中にリストがあり、このリストは耐震性能の低い順となっています。耐震補強が必要な学校は301校あり、このうち野庭小は全体で269番目に位置しており、相対的に耐震性能は高い方の位置づけです。

(2) 野庭小と野庭東小の環境状況を比較できる資料

野庭小と野庭東小の大気汚染状況を比較できる資料はありません。なお、大気汚染状況については、一般大気測定局として市内20カ所(原則1区に1箇所)で定期測定しており、港南区は野庭中で測定しています。今年度は、光化学オキシダントを除き全項目とも市内20カ所で環境基準をクリアしています。

《両校PTA選出委員での話し合いの結果》

保護者の考えは、それぞれの学校を残したいのが本音でした。しかし話し合いをしていくうちに、これからの子どもたちのことを一番に考えて話をすることができました。

通学路はどちらの学校にしても、通学時間が延びてしまう地域があるのは事実ですが、統合にあたり保護者及びPTAの人数が増えるので、パトロールを強化したりすることで対応していきたいと思えます。

建物の面ではどちらの校舎になっても、使えないということはありません。しかし子どもたちが狭い校舎に行くよりも、広い校舎でゆとりのある学校生活を送ってもらいたいということから、PTA選出委員の意見としては野庭東小を使用する方が良いということでまとまりました。

来年1年間は、野庭小と野庭東小の子どもたちが、友だちづくりや学校にも慣れてもらえるよう、多くの交流をもっていたきたいと思えます。

《両校の安全管理に対する取り組み》

野庭小学校では、施設面としては防犯カメラ・警報センサー・防犯ライトを各所に設置している。横浜市では防犯カメラは全小学校に設置されていて、不審者が侵入した場合はすぐに発見できるようになっている。他には登校時の校門での見守り活動、通用門の部分的施錠、不審者侵入防止訓練等を実施している。

登下校時の安全確保については、通学路の危険箇所チェックや「子ども110番の家」の依頼等、地域の方々にも「パトロール中」の名札をつけていただき、見守り活動をやっていただいている。特に低学年の子どもについて多くははまっ子ふれあいスクールに行っており、もし終わって帰れないという場合は、原則担任が家の近くまで送っている。(野庭小校長)

野庭東小学校では、教職員としては毎朝の登校時の安全指導、同学級・同学年を軸とした下校体制、安全パトロール、学区の安全点検、全校での防犯訓練、地域安全マップの作成等を行っている。

施設面では防犯カメラ・警報センサー等を各所に設置している。

保護者へのお願いとして、全児童に防犯ブザーを配布。「パトロール」の札を付け、自宅前や集団登校時の集合場所での見守り等を実施してもらっている。

地域へのお願いとして、毎朝、地域の方々による校門及び敷地内を中心に見守りをしてもらっている。

また、現在は学援隊を組織し、登下校の時間に合わせて見守りをいただいている。

また、近隣の小・中学校と連携し、通学安全に関する情報交換を密に行い、安全確保に努めている。「安全教育の日」を設け、各学年に応じて子どもの意識を高める安全対策を行っている。(野庭東小校長)

《両校長の意見》

設置場所の検討にあたっては、どちらが子どもたちの教育活動を最大限に生かせるのかという点である。例えば物理的な広さ、教室の数などは狭いより広い方がいいと思う。ただ狭い、広いというのは活動の内容によって感じ方が違い、広いから良い、狭いからダメだということではないと思うが、一般論としては広い方が活用の幅が広がる。グラウンドが狭いなら近くの公園を使用すればよとの意見があったが、道具を運んで体育をやることは考えにくい。

施設面では、工夫の仕方、授業ができないということはないが、「ゆとりをもって」ということを考えると教室の多い施設のほうが対応できる。通学時間については、施設がどちらになっても近くになる人もいれば遠くなる人も出てしまう。(野庭小校長)

統合対象校の校長ではあるが客観的な立場に立ち、検討委員会ニュースを熟読しては自問自答してきたが、結論としては子どもの教育環境として野庭東小が適切と思う。今の子どもたちにとっては、施設にゆとりがあるということも大切なこととして求められていると思う。多様な価値観の中で、教師も知恵を出し合って子どもたちと一緒に様々な取組をしていくことが大切。例えば本校は教室に余裕があるので、そこをどのように利用していくかを知恵を出し合って考え、生活科室や各学年の学習室を設け、新たな教育活動を展開することができた。そういうことも含めて野庭東小がいいのではないかと思う。(野庭東小校長)

□□ 主なご意見・ご質問 □□

- ☆ 昔から地域として野庭小にはいろいろな協力をしており、とても思い入れのある学校である。設置場所を議論することに伴い、そのことも考慮してほしい。
- ☆ 学校があって地域があり、地域があって学校がある。地域性が一番大事だと思う。
- ☆ 地域の方々に学校を支えていただいている。地域性は大切だと思うが、それは建物が決めることではなくて、地域の方々と保護者がつくりだしていくものと思う。どちらの学校になったから地域性がなくなるということではないと思う。新しい学校ができれば、新しい地域づくりをしていただくことが大切だと思う。(野庭東小校長)
- ☆ これまでの地域の方々の協力には感謝している。設置場所がどちらの学校になっても野庭の学校なんだという意識は継続していただきたい。また、子どもたちも統合して新しい学校をつくっていくという意識になってもらいたいと思っている。(野庭小校長)
- ☆ 新しい学校ができた場合、野庭に思い入れのある先生を配置してほしい。
→ 校長・教員も含め、今までの地域の精神を踏まえ、新しい学校の特色づくりができるよう、統合に当たっての人事について地域の思いがあることは担当課に伝えます。(事務局)
- ☆ どちらの学校施設をとっても一長一短ある。通学距離・時間も同じ。どこを重視したらいいのか難しいが、どちらの方が児童を確保しやすいか考えたほうがいいのかではないか。
- ☆ 一番大切なのは子どもたちとPTAなので、PTAの意向にそって地域としては協力していきたい。
- ☆ 設置場所が野庭小になった場合、統合するH20年以降になって耐震補強工事が始まると予測する。そこに野庭東小の児童500人が入って工事が始まるのでは、子どもたちにとって環境は良くない。野庭東小はグラウンドが野庭小の1.8倍と広く、校舎も余裕があるということでのびのびとした環境である。また、児童数でみると、すでに野庭東が野庭の中心となっているとも言える。このように総合的にみると、野庭東小を設置場所にすべきだと思う。
- ☆ 野庭小のグラウンドが狭いというなら野庭中央公園も使えるという意見が地域から出ている。学校の造りも迷路のようでなく、児童が中庭に出れば教室が見渡せる構造。通学路も舞岡上郷線を通らずにすむということから、野庭小を設置場所にすべきと思う。
- ☆ 野庭小が地域の中心だと思う。地域の団体(自治会)の間に野庭小があり、野庭中があるから環境がいいと思う。仮に野庭小がなくなった場合、跡に何ができるが不安。また、上郷舞岡線は多くの交通量があり、歩道橋を子どもたちが通学する。やはり地域の中心に学校があるべきだと思う。
- ☆ 保護者からも野庭小が地域の中心という意見が出た。どちらもメリットデメリットはあると思うが、その上で野庭東小を使用する方がいいという結論となった。今一番考えているのはソフト面であり、例えば100人が500人のところに移動するのと、その逆ではリスクが違うと思う。ソフト面について早く話し合いたい。
- ☆ 保護者としては両校の交流を早く、たくさん実施してほしいという意見が多い。通学距離も多少伸びるが、全体的なことを考えると大した距離ではない。保護者が何倍にも増えるので安心。早く決めて早く交流をして子どもがなじめるようにしてほしい。
- ☆ 自分のところの地域の話だけではなく、まず第一に子どものことを考えるべき。小学生にはのびのびと遊んだり勉強したりしてほしい。そういう意味で設置場所は広い野庭東小がいいと思う。
- ☆ 野庭小だとのびのびできないということはない。通学の安全性を考慮すると野庭小がいいと思う。
- ☆ 通学の安全性を調査して、それも設置場所の検討材料にしたほうがいいのか。
→ 通学について大きな支障があるとすれば考慮しなければならないが、この地域はどちらが危険ということはない。地域の方々のお力を借りながら、子どもたちの安全を見守っていきたい。(野庭東小校長)
→ 通学上で一番怖いと思うのは道路への急な飛び出しなど。それについては、他地区に比べると野庭地区は比較的安全な地域だと思う。危険だと思う箇所があれば、それは当然何らかのケアは必要なので設置場所がどちらになっても同様と思う。(野庭小校長)

多くの意見が交わされましたが、議論の結果、統合校は現在の野庭東小学校を使用することになりました。

●●統合校の設置場所が決まり、野庭小PTA選出委員から、今後について次のような要望が出されました●●

- ◎野庭小の跡地については、大きな土地が空いてしまうということから、跡利用については常に人がいるような利用方法を検討していただきたい。
- ◎統合校については全く新しい学校に生まれ変わるということから、小中一貫教育の検討をしていただきたい。
- ◎子どもたちのメンタル面のフォローをお願いしたい。特に野庭小の子どもたちに肩身の狭い思いをさせないよう、保護者も含め、野庭小・野庭東小両校がいったん閉校し、統合して新しい学校ができたということをよく知らせていただきたい。

2 学校名の選定方法について

学校名の選定方法については、アンケート方式により実施することになりました。

(1) 両校の保護者や通学区域の住民から新校名案を公募する。

(2) 公募の結果を参考に、検討委員会で新学校名案を1つ選定し、教育委員会に提出する。(意見書)

3 通学区域について

統合校及び統合校の中学校の通学区域案の方向性については、以下のとおりとすることを決定しました。

【統合校の通学区域】

両校の通学区域を合わせた学区とする。

【統合校の中学校の通学区域】

野庭小と野庭東小については、共に野庭中の通学区域であるため、現行のとおりとする。

◎検討委員会に寄せられたご意見について◎

(平成18年10月27日 Eメール)

検討委員会の皆様ご苦勞様です。次回設置場所が決まるということで、メール致しました。

登下校の不安感については、設置場所がどちらになっても同じだと私も思います。ただ、野庭東小は耐震面でも基準はクリアしており、これから工事をしたりすることを考えれば野庭東小を使うべきだと思います。設備が整った学校があるのに、なぜ税金を使って直す必要があるのでしょうか。

子ども達の安全は、登下校だけに限りません。その辺もどうか考慮していただきたいです。

ありがとうございました。検討の参考とさせていただきます。

【次回検討委員会日程】 平成18年12月8日(金) 午後7時から 野庭小 図書室で開催予定
(議題) ・学校名の選定について ・通学安全要望について
・特色づくりについて

野庭地区小規模校再編検討委員会の経過、横浜市の基本方針等は
ホームページでもご覧いただけます。

- ・基本方針など <http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>
- ・野庭地区小規模校再編検討委員会

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>



野庭地区小規模校再編検討委員会は、常に皆さまからのご意見をいただいております。
FAXかEメールにて、事務局までご連絡ください。

* 検討委員会事務局 *
横浜市教育委員会事務局 学校計画課

FAX: 045-651-1417

Eメール: ky-noba@city.yokohama.jp

TEL: 045-671-3252

